

米大統領予備選と メディア報道

講師：我孫子 和夫 先生（本研究所客員教授）

米国大統領予備選挙はいよいよ終盤を迎え、当初、泡沫候補と目されていたドナルド・トランプ氏が大方の予想を覆し、共和党の大統領候補指名をほぼ確実にした。民主党では下馬評通り、ヒラリー・クリントン氏に対立候補を圧倒し、早くも本選を視野に入れ、トランプ氏批判を展開している。

不動産王と呼ばれるトランプ氏は、これまでに数々の暴言を繰り返し、メディアの批判を浴びてきた。むしろ、自身に注目を集めるためにメディアを利用してきたと言えるだろう。ソーシャルメディアも巧みに活用し、社会や政治システムに不満を抱えている人々の支持を獲得してきた。時代の変遷と情報技術の進歩とともに変わってきた政治報道の性質や人々のニュース消費方法について考えてみよう。

■ 日時：

5月26日(木)14:50～16:20

※ 事前申し込み不要

■ 会場：

7号館2階クリスタルホール

■ 司会：

高杉 忠明 先生（英米語学科教授）

講師略歴



立教大学卒。米カリフォルニア州立大学でジャーナリズム第2学位取得後、マスコミュニケーション修士課程修了。1978年、AP通信社入社。フォトエディター、記者、東京支局次長、東京支局総支配人、北東アジア総支配人を歴任。AP在職中、日本外国特派員協会会長を務める。2010年に退職し、東京外国語大学国際教養プログラム、上智大学新聞学科などで教鞭をとる傍ら、翻訳・執筆活動に従事。2015年より、神田外語大学グローバルコミュニケーション研究所客員教授。

主催：グローバル・コミュニケーション研究所（1号館2階：1213号室）